

水害復興、頂行に学べ

助け合いや危機管理

江戸時代に水海道村(現・常総市)を拠点に人の生き方を説いた不二道の指導者、鈴木頂行に再び光を当てようと、県立竜ヶ崎一高(龍ヶ崎市)の生徒たちがまとめた論文が都内のコンクールで最優秀賞を受賞した。常総市に通う中で発生した大規模水害。生徒たちは「今こそ、頂行の教えが復興に役立つ」と話している。

頂行は1779年、講を道徳や家業精励な現在の常総市水海道宝前に理論化した。町の商家に生まれた。頂行の集大成「勸善江戸時代、富士山を信録」は、相互扶助や弱者仰する富士講の行者、救済、男女平等などを小谷三志に師事、富士説き、人々の大きな支



鈴木頂行が残した「勸善録」の原典を調べる竜ヶ崎一高の生徒たち。昨年6月、常総市水海道宝町

竜ヶ崎一高生 論文で最優秀賞



えとなった。江戸時代の農政家、二宮尊徳に影響を与えたほか、評判は朝廷にも届き、光格上皇に拝謁を許された。

同校の2年生4人は昨年6月、日本史の授業から発展し、頂行から数えて8代目の鈴木雅彦さんに会い、古文書の調査を始めた。同市に通う中、水害が発生。「締め切りが迫り、どうなることか心配された」(小野威人教諭)が、「自分たちでできるのは、論文をまとめること」と、9月末に完成させた。

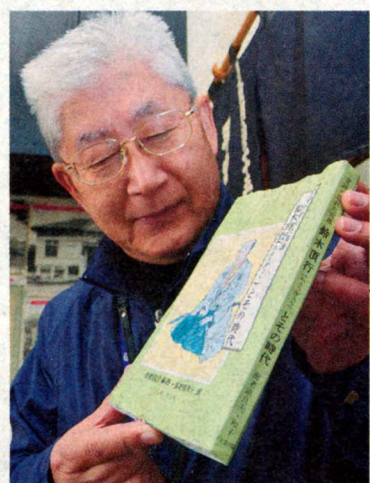
作品名は「頂行伝―常総市水海道の埋もれた思想家を発掘する」。若者の歴史や民俗学研究を奨励する東京・板橋区の「第14回櫻井徳太郎賞」高校生の部に

応募。20点を超える作品の中から最優秀賞に輝いた。

生徒らは、不二道は「今で言うボランティア活動を説いたもの。その根底には『孝』がある」と指摘。水害復旧には欠かせないボランティア精神の重要性をうかがわせた。

雅彦さんは「暗い話題が多い中、久々の朗報」と喜び、「勸善録では、農閑期に堤防や水路を整え、水害に備えるべきとの教えもあり、現代の危機管理や復興にもつながる」と話した。

4人は、同校で異文化体験や英語を重点的に学ぶ。池上晃平君は「頂行の教えは常総の復興に必ず役立つ。レポートを英訳し、世界にも発信したい」と意気込んでいた。表彰式は3月に行われる。(松田拓朗)



水没した本と海老原良夫さん

頂行の本、復刊へ募金 在庫水没、支援の輪

常総市誕生10年

常総市は1日、合併から10年を迎えた。2006年1月1日、水海道市が隣接する石下町を編入し、常総市と改称した。記念式典は昨年11月に予定していたが、9月10日の大規模水害で中止した。新年の恒例行事である賀詞交歓会も取りやめた。成人式や消防出初め式の功労者表彰は行方。

使った資金調達(クラウドファンディング)が始まった。

本は「常総の隠れた英雄 鈴木頂行とその時代」(2013年)。同市水海道橋本町の海老原良夫さんが30年間取材し、妻の和子さんが絵を添え、18歳で亡くなった次女の命日に自費出版した。

同町は高さ2メートルほど浸水。海老原さんが被災した家を片付け、都内の男性から本を購入したいと連絡が入ったが、在庫本は全て水没していた。

取手市でまちづくりに務める伊藤予應さんが知人を通じて事情を知り、支援を始めた。目標額は復刊や電子書籍化のための100万円。これまでに約22万円が寄せられている。期限は3月15日。

伊藤さんは「歴史や文化は人に力を与え、まちに誇りが持てる。ぜひ協力してほしい」と呼び掛けている。アドレスは、<https://faavo.jp/tsukuba/project/925>